

日本健康心理学会メールマガジン No.47



2016年6月22日 第47号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.42 関西医科大学 西垣悦代先生

1) 学会からのお知らせ <http://jahp.wdc-jp.com/>

■機関紙変更のお知らせ(機関誌編集委員会より)

7月末に新雑誌名となって初めての電子発行を行います。機関誌は、第29巻1号より「健康心理学研究」から「Journal of Health Psychology Research」に名称が変更されました。1号は、J-STAGE上の電子発行のみになります。是非アクセスしてみてください。
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jahp/-char/ja/>

■研究倫理研修会に関する報告とお知らせ(機関誌編集委員会より)

5月22日(日)に、機関誌編集委員会委員、常任理事を対象とした研究倫理研修会を行いました。「研究倫理と利益相反」として島井哲志先生(関西福祉科学大学)、「学術出版倫理の指針」として佐藤寛先生(関西学院大学)に話題提供をいただきまして、昨今の研究倫理の考え方に於いて有益な情報交換を行いました。第29回岡山大会の際に、全会員の皆様を対象とした機関誌編集委員会企画として公開する予定です。

■論文投稿時の「二重投稿」に関する判断目安について(機関誌編集委員会より)

最近、論文投稿時の「二重投稿」の問題に関して、話題になることが多くなりました。機関誌編集委員会では、一般的な二重投稿の考え方に加え、判断が難しい場合の目安を定めました。論文投稿の際に以下の内容を参考にしてください。
・同一データセットの再利用だけでは、二重投稿とはみなさない(原則、研究目的が異なっていることが必要)。
ただし、(投稿中の論文も含めて)同一データセットを用いていることは当該論文に明示する必要があります。
・データの公表にあたって、先出の論文で明示されたものは、後出の論文では(部分的であっても)適切に引用の形式をとる必要がある(Unpublished Manuscriptも含む)。
・著者自身の論文であっても、別に執筆した論文の多くの部分を引き写した場合、自己剽窃行為にあたる。
・論文投稿時の倫理チェックリストの定めに従って、論文投稿時に関連論文の提出を求め、個々の内容を判断する。

■熊本プロジェクトのご連絡(副理事長 山田富美雄より)

本学会の熊本震災への対応として、6月1日に研究部会設置に向けたメールを学会メンバーに送付しました。14日までに33名の会員のみなさまから参加申し込みがありました。研究部会として申請手続きに入るとともに、これからの実践研究計画をお送りし7月中旬の実施に向け準備をはじめたいとおもいます。

■2016年度の研修会の予定(研修委員会より)

2016年度の研修会の予定

- [1] 7月31日(日) 別府大学(大分県) ストレスマネジメント学会と共催で『災害ストレスマネジメント研修』を開催します
- [2] 10月30日(日) 京都大学(京都府) 日本禁煙科学会と共催で『健康心理学分科会』を開催します
- [3] 11月19日(土)-20日(日) 岡山大学(健康心理学学会第29回大会) 健康心理士会と研修委員会共催で『震災ストレスマネジメント教育の実践』を開催します。

■日本健康心理学会第29回大会(岡山)

大会ホームページにおいて、以下の内容が更新されました。
・ダウンロード
「いざ!岡山へ!!-岡山大会の魅力-」内において、以下の内容が更新されました。
・岡山の魅力(7)/美作三湯(湯原・湯郷・奥津温泉)
・岡山の魅力(8)/日生・牛窓・備前
・健康心理士会研修のお知らせ:「震災ストレスマネジメント教育の実践」について
・会期前日プログラム:ヤングヘルスサイコロジストの会によるシンポジウム「健康心理学の面白さ」について
詳しくは <http://jahp.wdc-jp.com/conf/29th/okayama.html>

ただいまWebにて発表申し込み受付中です。
第29回大会URL: <http://jahp.wdc-jp.com/conf/29th/>

2) 健康心理学コラムvol.42

「コーチング心理学の普及をめざして」 (関西医科大学医学部 西垣悦代先生)

この3年間、科研費を頂いてヘルスコーチングの研究と実践を行ってきました。コーチングの定義にはいくつかありますが、私は「コーチとクライアントの関係性の中で実施される、クライアントの個人および職場、地域でのウェルビーイングとパフォーマンスを高めるための活動」と考えています。

普通の人をより元気にするお手伝いも健康心理学者の仕事のひとつといえるでしょう。コーチングのルーツにはカウンセリングがあり、技法も共通するものがあるので、本来ならば心理学関係者に馴染みがあるはずですが。しかし、学会などで「コーチング」と題した発表をしてもスポーツ・コーチングのことと勘違いされることもあり、心理学者を中心とするコーチング心理学会が存在する諸外国と比べて、日本での認知度は今ひとつでした。

コーチングは実践を抜きには語れませんが、一方でコーチングの理論や成立過程を整理したり、エビデンスを明らかにするのは研究者の仕事です。2015年秋には「コーチング心理学概論」(ナカニシヤ出版)を科研の成果として発表することができました。また、昨年健康心理学学会に桜美林大学の石川先生らがシドニー大学のカバナフ先生を招聘してくださったことで、健康心理学者の間でコーチングへの関心が高まってきたのでは、と期待しています。

今年のICPでは「アジアのコーチング心理学」という招待シンポジウムを開催する予定です。多くの会員の皆様にお会いできることを楽しみにしています。

日本健康心理学会広報委員会
<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。日本健康心理学会事務局 ajahp-post@bunken.co.jp

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。広報委員会 ajahp-ML@bunken.co.jp

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます
<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>